



親子のコミュニケーションによって育まれる家族の絆

右のグラフは、社団法人日本PTA全国協議会が平成23年3月に発行した「教育に関する保護者の意識調査報告書」の抜粋です。調査対象は、小学5年生と中学2年生の保護者です。

図1は、「あなたは平日、一日の中で子どもと一緒に過ごす時間で行っていることは主にどのようなことですか。(三つまで選ぶ)」という設問です。また図2は、「あなたは子どもを含め、家族とコミュニケーションの場をどのように取りたいと考えていますか。(いくつでも選んでよい)」という設問です。二つの図を比べてみると、「テレビを一緒に見る」、「家族そろっての食事」、「家族団らんで話す」の上位は同じですが、その中でも「家族団らんで話す」のポイントが実際に過ごしている時以上に希望する比率が高くなっています。また、「家族で出かける」、「家族でスポーツ、散歩」など能動的な活動に関しても、実際に過ごしている時以上に希望する比率が極めて高くなっています。

今一度、自分たち親子間のコミュニケーションのあり方を振り返ってみてはいかがでしょうか。親子同士がしっかりと向き合い理解し合える積極的なコミュニケーションにより家族の絆が深まると思います。

ここで、文部科学省と社団法人日本PTA全国協議会との共催により募集した「平成22年度 親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」に関する三行詩の優秀作品を紹介します。

図1 平日子どもと一緒に過ごす時間

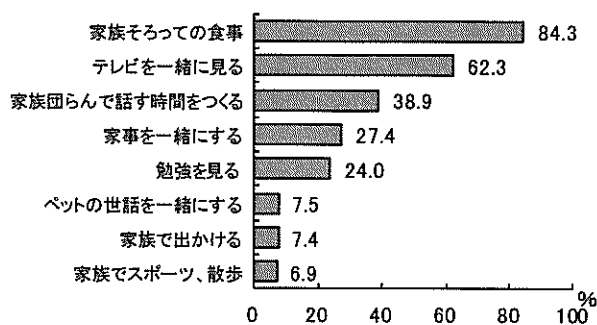
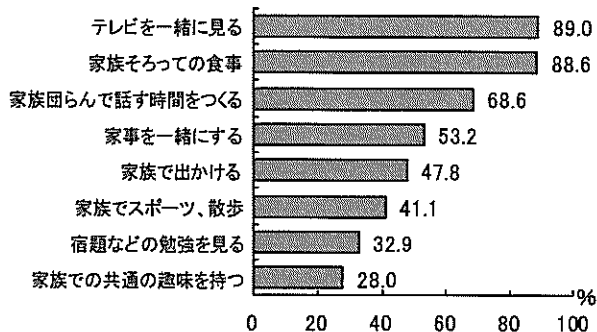


図2 子どもを含め家族とのコミュニケーションの場をどのように取りたいか



「親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」に関する三行詩 優秀作品

自動車の音、自転車の音、足音、
わたしにはわかる
おかえりなさい
(小学生の部 井口なみ／和歌山県)

ホッとする
働く母の
置き手紙
(中学生の部 立石 京／長崎県)

冷房代
節約するため リビング集合
団欒復活 猛暑に感謝
～思春期の子を持つ母～
(一般の部 阿部伸子／埼玉県)

学校でそだてた大切なミニトマト。
1つはパパのおべんとうに、
もうひとつはいもうととはんぶんこ。
(小学生の部 佐々木 鞠／岐阜県)

「頑張らなくていいからね。」
その一言で 頑張れたよ、
ありがとう、ばあちゃん
(中学生の部 武田圭一郎／愛媛県)

我先にと 話したくて堪らぬ三姉妹
番号順にお呼びしますので
どうか、箸を進めてお待ち下さい
(一般の部 別所亜紀子／神奈川県)

地域に支えられ、今年もグッジョブウィーク

今年で12年目となる「さわやか 八戸 グッジョブウィーク」が、中学2年生を対象に市内公立の全中学校で実施され、およそ2,300名が参加しています。数日間の職場体験や福祉・ボランティア体験から、豊かな感性や創造性と共に自律性を高め、自分なりの生き方を見つけていくことを目的としています。そして、この事業は、「地域の子どもは地域で育てる」という視点が重要となりますので、学校だけで実施することなく、学校・家庭・地域社会の三者がそれぞれの役割を明確にし、準備段階からの連携が不可欠となります。毎年、地域の方々の温かいご理解・ご協力ありがとうございます。

グッジョブウィークを南郷図書館で体験した生徒の感想文を紹介します。

『仕事を続けられる理由』

島守中学校2年 織田 京花

グッジョブをする前の私に「何のために働くの?」と聞かれたら、きっと私は「お金のため。生活のため。」と答えると思います。でも、今は違います。

グッジョブの事業所が南郷図書館に決まったとき、初めはあまり興味がなく「図書館は楽しそうだし、暇になりそうだな」と思っていました。しかし、グッジョブを体験してみると、それが誤解であることに気づきました。

南郷図書館で作業をするとき、最初は分からないことだらけで不安でした。でも、図書館の方々が一つひとつ丁寧に教えてくださったので、とても助かりました。書架整理では、文字や数字ばかりを見ていて、目が疲れるので大変でした。さらに難しかったのが、カウンターでの実習でした。私はコミュニケーションを取るのが苦手だからです。ぎこちない挨拶をしてしまった上に、あたふたしてしまって、しっかりした接客ができませんでした。利用者の方は、苦笑いしながら見ていました。そんな経験をして、私は改めて、知らない人とのコミュニケーションの取り方は難しく、とても大切だということを学びました。

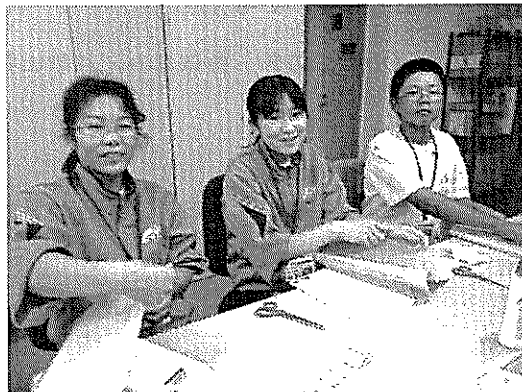
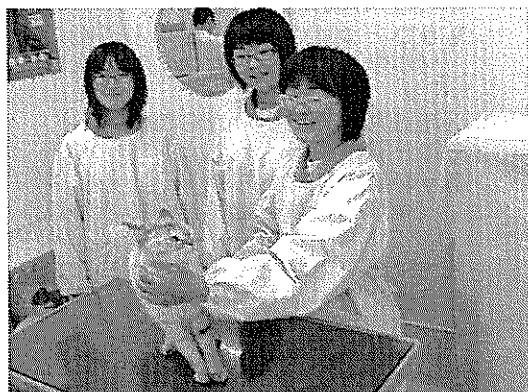
図書館の作業はこれだけではありません。「企画展示」といって、季節のおすすめ本を紹介するコーナーがあります。アイデアが求められる作業があることを知り、びっくりしましたが、やりがいもありそうです。グッジョブの最後に「島守中生がおすすめする秋の本」の展示を行うことになりました。図書館の方々が、私たちにこの作業の全てを任せてくれました。まず初めに、どんな本を展示するかを決めました。どんな本を紹介すればいいのか、すごく迷いました。飾り付けも、どうすれば目につきやすくなるのか、どうすれば読んでもらえるか、たくさん考えて作りました。

こんなに大変な仕事を続けられる理由は何か、図書館の方に聞いてみたところ「本が好きだから。みんなに本を借りてもらえることにやりがいを感じたから」等の答えが返ってきました。だから、仕事を選ぶときは、楽しさややりがいを感じられる職業に決めたいです。

今回のグッジョブでは、仕事の大変さや、接客での心構え、挨拶の大切さなど、たくさんのことを学ぶことができました。これからの生活に生かせるよう、努力していきます。

他にも、「働くということは、やりがいを感じるもので、その中でも楽しいことやつらいこと、大変なことがあることがわかりました。」「体験してみて、接客の仕方、あいさつや礼儀の大切さ、働いているときの態度に気を配ることを学びました。」などの感想が寄せられています。

今後とも、「さわやか 八戸 グッジョブウィーク」そして、青少年健全育成に向けて「さわやか 八戸 あいさつ運動」へのご協力もお願いします。



(写真は、鮫中と島守中の今年度の活動のようすです)